奨励賞（全国枠）　あゆみさん　（埼玉県　高校２年）

「地球人としてのありかた」

私の考える 2045 年の理想の未来像は、日本人としてではなく「地球人」として、自分の暮らす地域から世界を見つめ、世界のため、地球のために行動していく社会だ。

そもそも、私の定義する地球人とは、全ての事象に対して地球規模として包括的に物事を捉え、地球社会の一員としての自覚を持った人間のことだ。

国連は、主に途上国の社会開発の課題を 2015 年までに解決しようと MDGs を設定した。また、それを基盤として更に全世界を対象とし、2030 年を期限に『地球中の誰一人取り残さずに持続可能な社会を作る』ことを目的として各国の合意のもと SDGs を設定した。そしてポスト SDGs は、私たち高校生が最も活躍しているであろう 2045 年を目指した目標であり、私たちが達成に向けて真剣に取り組むべきことである。

SDGs が設定されてから今までの 5 年間でソーシャルネットワークサービスやインターネット環境、AI が飛躍的に発展し、それに伴った世界の大きな変化が、今まで不可能だった多くのことを可能へと変えた。2030 年、そして 2045 年と解決しなければならない課題は変化し、これからは想像もできないような問題が発生するであろう。

現状、発展途上国で大きな経済格差が存在しているが、先進国の発展途上国への協力で徐々に生活・労働環境などの問題点が改善され、また今の先進国と同じくらいネットワークサービスも発展していき、2045 年には発展途上国のみならず、すべての国、全ての共同体が今まで以上に生活しやすい環境へと変化するに違いない。また、それと同時に「地球人」という考え方が生まれる。自分自身を固定観念という枠にあてはめず、皆が平等な地球人としてそれぞれの暮らす地域から自身の共同体のみならず、全世界の問題解決に携わることができる。つまり、先進国や発展途上国など関係なく、国籍、人種、宗教、性別に

かかわらず、地球人として生き、対等な存在となる。

おそらく、今後、SDGs に対して全世界の人が真剣に取り組めば、飢餓や貧困を始めとした様々な問題が解決し、今以上に新たなものが生み出される世の中になっているだろう。しかし、全世界の人が真剣に取り組むこと以前に、SDGs が何なのか未だに理解できていない人がいるということも現実だ。また、AI が発達していくことで世の中が便利になる。

しかし、2045 年のことを考えるにあたってどうしても 2045 年問題「シンギュラリティ」に直面する。AI の技術の発展の裏で、人間の知能を越してしまう恐れが生じ、AI が AI を自ら生み出してしまい、人間にとって変わるような存在になってしまうかもしれない。多くのことが AI に取って代わられる可能性があるだけに、今まで以上に人と人との触れ合いが大切になるはずだ。今は、英語を十分に話せないが故に世界各国の人と交流を持つのが難しいのが日本人の課題である。しかし、それすらもＡＩの発達によって気軽に意思疎通ができるようになる。すると、国際化ではない、本当のグローバル、つまり地球規模で物事を考え、行動できる世の中へと変化する。

飢餓や貧困が無くなると、人の心が豊かになり、それと同時に人を思う余裕が出てくる。そのようになると、自分のことや自国のことを最優先することから、国家という枠組みではなく、地球人としての発想で物事を考えるようになるのではないか。

私は、2045 年が人を傷つけ、いがみ合いの無い世界であって欲しい。自分の暮らす地域から世界を見つめ、地球規模で相手のために行動していく「地球人」でいることこそが 2045 年のあるべき姿だと考える。